



# 指導改善ポイント



## 1 国語

- ・文章を書く目的や意図を明確にし、客観的な事実を取り上げることで、自分の考えが伝わりやすくなることを自覚できるよう指導しましょう。
- ・「具体」「抽象」の語意だけでなく、具体的な事例を取り上げ、その概念を理解できるよう指導しましょう。
- ・文や文章の中で漢字を正しく使えるよう繰り返し指導しましょう。

## 2 算数・数学

- ・系統性に留意しながら、当該学年の知識・技能を身に付けるまで丁寧に指導しましょう。
- ・「何を」「どのように」説明するのかを明確にして説明する活動を位置付けましょう。
- ・説明を読んで評価・改善したり、新たな性質を見出したりする学習活動を充実させましょう。

## 3 質問調査

- ・「個別最適・主体的・対話的」な学習であったかの視点を持ち、児童生徒の目線に立って授業を振り返りましょう。
- ・授業実践の中で ICT 機器を最適に組み合わせて活用しましょう。
- ・教師が事実の価値や願いまで認める声かけを継続して行い、「他者との協働・社会貢献」の機会を増やして、自己肯定感を高めましょう。
- ・「いじめはいけない」と言い切れていない児童生徒の思いにも寄り添いながら、指導対応をしましょう。



# 教科に関する調査結果から見られる指導改善のポイント



## 全国学力・学習状況調査の結果から

## 小学校 国語

② 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題 **【正答率】47.4% (全国：56.6%)**

【問題】高山さんは、次の【高山さんの文章】の口に、【高山さんの取材メモ】をもとにして考えた「たてわり遊び」のよさを書こうとしています。あなたが高山さんなら、口に入る内容をどのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

<p><b>みんな仲よし「たてわりはん」</b></p> <p>わたしたちの学校には、1年生から6年生までのメンバーが、同じはんで活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の人とも仲良くなります。</p> <p>「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、3色対決で行います。上級生が下級生に伝えるの仕方を教えたり、下級生も楽しめるように、つきよぎの作戦を考えたりします。「みんなてつな引きをしよう」という2年生や、「下級生とつなぎに熱い気持ちになる」という5年生がいます。このように「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになるところだと思います。</p> <p>「たてわり遊び」は、毎月1回休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ活動です。みんなが楽しめるように、6年生が、遊びたいことを下級生に聞いたり、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジボールでは、上級生が遠くからボールをいけるようにしています。</p>	<p><b>【条件】</b></p> <p>①【たてわり遊び】のよさについて考えたことを書くこと</p> <p>②【高山さんの取材メモ】の下級生に聞いたことから文を取り上げて書くこと</p> <p>③60字以上、100字以内にまとめて書くこと</p>
--	---

解答類型	反応率(%)	正答
1 条件①②③を満たしているもの	47.4	◎
2 条件①②は満たしているが③は満たしていない	0.9	
3 条件①は満たしているが、②は満たしていない(③は不問)	0.7	
4 条件②は満たしているが、①は満たしていない(③は不問)	37.2	
5 上記以外の解答	5.1	
6 無解答	8.7	

下級生に聞いたこと(事実)は書けているが、たてわり遊びのよさについて考えたこと(意見)が書けなかった「解答類型4」の誤りが多いです。書く目的や意図を明確にし、事実と感想、意見を区別して書き表す工夫が大切です。 **Point 1 へ**

<質問紙調査より>

Q 自分の考えを发表する機会では自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して发表していましたか

Q 国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか



自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表したり、自分の考えを書いたりしていることを自覚している児童ほど、正答率は高くなっています。自分の考えが伝わるように話を組み立てる工夫や、目的に応じて簡単に書いたり、詳しく書いたり工夫することに挑戦し、その工夫を自覚させることが大切です。 **Point 1 へ**

## 全国学力・学習状況調査の結果から

## 中学校 国語

②(二)具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題 **【正答率】70.5% (全国：75.2%)**

【問題】下線部①と下線部②の関係の説明したものを最も適切なものを、次の1から4までの中から1つ選びなさい。

今問題となっているのは「形」です。ですから「二次元的(平面的)な形容詞と三次元的な(厚み方向の)形容詞に分ける」とはできません。つまり先ほどあげた例であれば「楕円形の」「先の」というです。

な「手」の「の」の「の」は「平面の形容詞」で、「薄」は「平面」ではない。「厚」は「厚み方向の形容詞」です。

1 下線部②で下線部①の内容を抽象的に言い換えている。

2 下線部②で下線部①の内容を具体的に言い換えている。

3 下線部②で下線部①の内容についての推測を述べている。

4 下線部②で下線部①の内容についての意見を述べている。

解答類型	反応率(%)	正答
1 「抽象的に言い換えている」と解答しているもの。	8.9	
2 「具体的に言い換えている」と解答しているもの。	70.0	◎
3 「推測を述べている」と解答しているもの。	9.1	
4 「意見を述べている」と解答しているもの。	9.3	
5 上記以外の解答	1.0	
6 無解答	1.8	

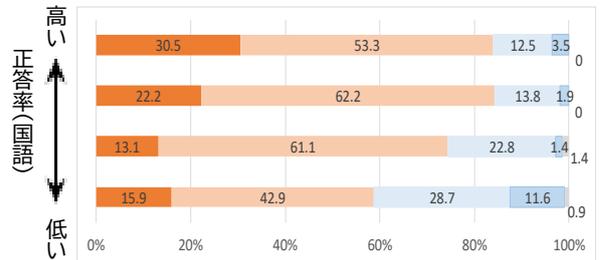
- ※ 「具体的」「抽象的」の言葉の意味を理解できていないもの
- ※ 「できそうです」という文末を「推測」ととらえた。
- ※ 「つまり」という語句と「意見」と結びつけた。

意見・根拠、具体・抽象など、情報と情報の関係を正しく読み取り、理解することに課題があります。

令和5年度中学校国語③三においても、情報と情報の関係の理解に関する問題で全国平均を6%下回る結果がありました。

<質問紙調査より>

Q 国語の授業で話を聞いたり、文章を読んだりとときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解していますか。



日常の学習や生活の中で聞く・読む・書くなどの活動をする際に、具体や抽象の関係を捉えていこうとする意識が大切です。

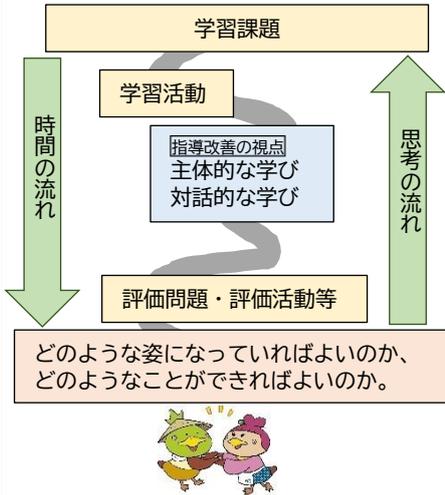
具体と抽象の概念を理解するには「具体」「抽象」という言葉の意味の確認だけでなく、身近な情報の中から具体と抽象の関係になっている事例を取り上げ、それぞれの概念と実際の事柄とを結びつけて理解することが大切です。 **Point 2 へ**

「学ぶ喜び 学び合う楽しさ」の実感できる授業づくり

- 1 ②単元・授業構想の創意工夫
- ・ねらい及び資質・能力の明確化
- ・単元出口からの指導過程の構想



視点 「主体的な学び」「対話的な学び」  
「評価と指導の10分」



Point 1 文章を書く目的や意図を明確にし、客観的な事実を取り上げることで、自分の考えが伝わりやすくなることを自覚できるように指導しましょう。

(1)児童が事実と感想、意見を区別できるようにしましょう。

今回、下級生の感想(事実)を自分の考え(意見)のように書いてしまった児童が多いようです。授業では、教師が児童一人一人の**できていることやつまづいていることを捉え**、児童が**自分の課題に気づくことができる**ように指導しましょう。

**指導例** 捉え:「下級生の感想(事実)は書けているけれど、自分の考え(意見)を書くことにつまづいている」  
発問:「下級生の感想(事実)は、どのような考えを伝えるために書いたのかな」

(2)書いた文章が、伝える目的や意図にあっているか、取り上げた事実が、自分の考えを裏付けるものになっているか自覚できる活動を位置づけましょう。

授業では、「**伝える目的や意図**」や「**事実が自分の考えを裏付けているか**」の観点で、書いた文章を自身で見直したり、児童同士で読み合っって評価したりする場面を設定してみましょう。

(3)いろいろな条件(キーワード、文字数など)を設定して、文章を書く練習をしましょう。

**指導例** ①:「自分の考えを、2つの事実をあげて書きましょう」  
②:「自分の意見を「例えば」を使って、まとめましょう」  
③:「100文字以内で、自分の考えをまとめましょう」

Point 2 具体、抽象という言葉の意味の確認だけでなく、身近な事例から具体と抽象の関係になっている事例を取り上げ、具体と抽象という概念を理解する場面を設けることが効果的です。

○「情報と情報の関係」は段階的に指導されています。

小学校高学年…原因と結果などの情報と情報の関係  
第1学年…原因と結果、意見と根拠などの情報と情報の関係  
第2学年…意見と根拠、具体と抽象などの情報と情報の関係  
第3学年…具体と抽象など情報と情報の関係について理解を深めて説明する。

(1)言葉の意味と概念の正しい理解

- ①「具体」「抽象」という言葉の意味を確認し、正しく理解する。
- ②身近な情報の中から具体と抽象の事例を取り上げてそれぞれの概念と実際の事柄を結びつける。
- ③身近な事例から具体や抽象を表す語句の量を増やす。

(2)「読むこと」「書くこと」の学習場面で指導する。

- ①具体的な例示部分と抽象的にまとめて述べられている部分に着目して文章の内容を捉える。
  - ②読み取ったことをまとめる際に文章のどの部分を用いるかを目的に照らして検討する
- 学んだことを生かせるように学習展開を工夫することが大切!**

指導例



「具体」と「抽象」は対義語の関係になっています。それぞれの言葉の意味を国語辞典で調べてみましょう。そのうえで具体と抽象の関係が説明できそうなものを身近な情報の中から探して、その関係を説明してみましょう。

【給食の献立表】

日	主食	主菜	副菜	その他
4日(月)	ごはん	焼き魚(サバの塩焼き)	おひたし	すまし汁 牛乳
5日(火)	コッパン パン	コロック	サラダ	豆スープ 牛乳

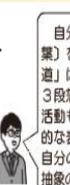


今日の主菜は、「焼き魚」です。「焼き魚」と「サバの塩焼き」を比べてみると、「焼き魚」は抽象的な表現で、「サバの塩焼き」は具体的な表現と言えるのではないのでしょうか。



「焼き魚」と「主菜」を比べてみると、「主菜」が抽象的な表現と言えます。比べる対象によって、何が具体的に何が抽象的になるのかが変わりますね。

指導例



自分が書いた(今年度の決意の言葉)を見ると、1段階目の「文武両道」は抽象的な表現で、2段階目と3段階目で述べている、学習面も部活動も頑張りたいという部分は具体的な表現になっていると思います。自分の書いた文章の中にも、具体と抽象の関係がありました。

《今年度の決意の言葉》

最上級生である3年生になりました。私は、文武両道を目標に掲げ、中学校生活に悔いを残さぬよう、全力を尽くしたいと思います。学習面では、家庭学習を充実させていきたいです。これまであまり家庭学習をしてこなかったため、隙間の時間を活用し、毎日30分であっても机に向かい、2年生までに学習したことを計画的に復習していきたいです。また、部活動では、夏の大会が中学校生活最後の大会になります。最後まで自分とチームの力の向上を目指して練習に取り組みたいと思います。略

出展: 令和5年度中学校報告書コラム③ P. 54

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題 【正答率】小:34.1%(全国:43.4%) 中:61.7%(全国:68.8%)

小学校国語2ア

No.	解答類型	反応率
1	「競技」と解答	34.1
2	「競」と解答・「技」が誤答	9.3
3	「競」が誤答・「技」と解答	10.9
4	上記以外の解答	21.1
5	無回答	24.6

中学校国語3三

No.	解答類型	反応率
1	「満ち足りた」と解答	61.7
2	「満」だけ正しく解答	7.1
3	「足」だけ正しく解答	8.4
4	上記以外の解答	8.9
5	無回答	13.6

小・中学校ともに文や文章の中で正しく漢字を書くことに弱さが見られます。

Point 3 小・中学校ともに文や文章の中で漢字を正しく使えるように指導を工夫しましょう。



・読みや形を覚えるだけでなく、意味や使い方を理解し、実際に文や文章の中で漢字を使うことが大切です。

・読書、他教科、生活の中で、漢字に触れ、意識を向ける機会を増やし、語彙を豊かにすることが効果的です。

# 教科に関する調査結果から見られる指導改善のポイント

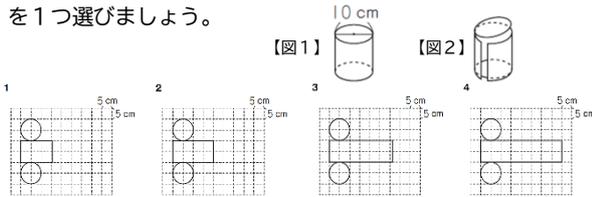


## 全国学力・学習状況調査の結果から

## 小学校 算数

③(2)直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる問題【正答率】59.2% (全国:71.3%)

【問題】図1の円柱を図2のように切り開くと展開図ができます。側面の長方形の横の長さは、円柱の底面の円周の長さと同じになります。下の1～4の中から最もふさわしいものを1つ選びましょう。



解答類型	反応率(%)	正答
1と解答しているもの(円周=半径×3.14と捉えた)	4.7	
2と解答しているもの(円周=直径×2と捉えた)	18.5	
3と解答しているもの(円周=直径×3.14と捉えた)	59.2	◎
4と解答しているもの(円周=直径×4と捉えた)	15.4	
上記以外の解答	0.7	
無解答	1.6	

※  円周の求め方を誤って捉えているもの

☞ 図形を構成する要素である面と面、辺と辺等の位置関係に着目しながら、立体図形を見取図や展開図で表したり、逆に見取図や展開図から立体図形を構成したりすることができるようにすることが大切です。Point 1 へ

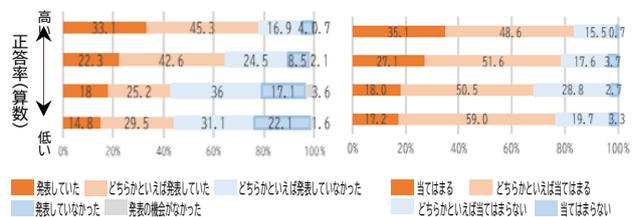
⑤一定の事柄が成り立つ理由や予想した事柄を数学的な表現を用いて説明することができるかをみる問題

本年度の調査では…

問題番号	正答率(%)	備考
2(1)	51.9	「方法」の説明をする問題
3(4)	68.9	判断の「理由」を説明する問題
4(3)	24.7	判断の「理由」を説明する問題
5(3)	41.3	「事実・事柄」を説明する問題
平均	46.7	

Q 自分の考えを発表する機会では自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか

Q 各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動をおこなっていましたか



☞ 自分の考えがうまく伝わるよう工夫したり、自分の考えをまとめる活動を行っている児童ほど、正答率は高くなっています。目的を意識した言語活動や、言葉と数でデータを表す力を育成することが大切です。Point 2 へ

## 全国学力・学習状況調査の結果から

## 中学校 数学

⑦(1)与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかをみる問題【正答率】60.8% (全国:74.3%)

【問題】10cmの位置から進んだ距離について調べた結果をもとに、10cmの位置から進んだ距離の最頻値を求めなさい。

1.5 1.9 1.9 1.9 1.9 1.9 1.9 1.9 1.9 2.0 2.0  
2.0 2.0 2.1 2.1 2.2 2.2 2.2 2.2 2.4 2.4

解答類型	反応率(%)	正答
1.9と解答しているもの。	60.8	◎
1.5と解答しているもの。(最小値)	10.6	
2.4と解答しているもの。(最大値)	7.8	
2.0と解答しているもの。(中央値)	5.0	
上記以外の解答	7.2	
無解答	8.6	

※  用語の意味を正しく理解できていないもの  
 ※  用語の意味が理解できていないことに起因するもの

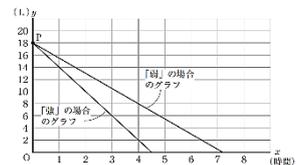
【(小)第6学年】代表値、ドットプロット、度数分布を表す表・グラフなど  
 【(中)第1学年】ヒストグラムや相対度数など  
 【(中)第2学年】四分位範囲や箱ひげ図など

☞ 最頻値は、小学6年生で学習する代表値の1つである。代表値を用いて問題の結論について判断するとともに、その妥当性について批判的に考察するためには、代表値の意味を正しく理解したり、目的に応じて適切に使ったりできることが大切です。Point 1 へ

⑧(2)事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明できるかどうかをみる問題【正答率】10.9% (全国:17.1%)

【問題】ストーブを使用し始めてから18Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いがおよそ何時間になるかを考えます。ア、イのどちらかを選び、それを用いて説明しなさい。

ア: 「強」の場合の式  $y = -4x + 18$  と 「弱」の場合の式  $y = -2.5x + 18$   
 イ: 「強」の場合のグラフと 「弱」の場合のグラフ



解答類型	反応率(%)	正答
アを選択し、式に $y=0$ を代入し、対応する $x$ の値の差を求めているもの。	5.2	◎◎
アを選択したが、上記の説明が不十分であるもの。	11.9	
イを選択し、グラフの $y$ 座標が0であるときの $x$ の値の差を求めているもの。	5.2	◎◎
イを選択し、グラフの $y$ 座標が0である点に着目し、2点間の距離を読み取るもの。	0.5	◎◎
上記以外の解答	37.7	
無解答 (ア、イを選択した無解答含む)	39.5	

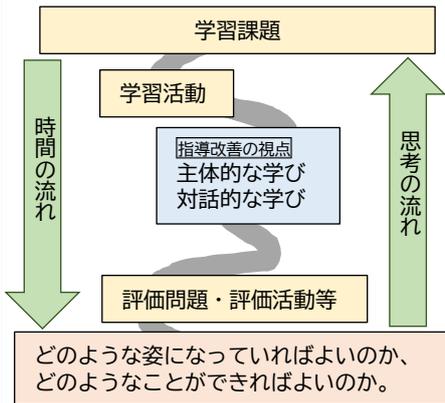
☞ 事象の中にある関数関係を見だし、数学的に表現・処理して問題を解決し、得られた結果の意味を考察する場合、問題解決の方法について数学的に説明できることが大切です。Point 3 へ

「学ぶ喜び 学び合う楽しさ」の実感できる授業づくり

- 1 ②単元・授業構想の創意工夫
- ・ねらい及び資質・能力の明確化
- ・単元出口からの指導過程の構想



視点 「主体的な学び」「対話的な学び」  
「評価と指導の10分」



**Point 1** 算数・数学としての系統性に留意しながら、当該学年の知識・技能を身に付けるまで指導しましょう。

- ①児童が義務教育9年間で身に付けていく学習内容を知る。「どの学年でどの内容を」「どの内容が、今後どのようにつながっていくのか」「これまで学習したどの内容がつながっているのか」  
参照▶小学校学習指導要領解説（数学編）P12～17  
参照▶中学校学習指導要領解説（数学編）P12～17

②授業では、生徒がそれまで身に付けてきた知識・技能の中で何を活用したのかを確認するための発問をする。

- ③授業では、「理解を深める問題」や「繰り返し練習する問題」に取り組む活動を位置付ける。
  - ・形式的な処理を繰り返すことにより習熟を図る
  - ・筋道立てて考えたことを、同じ問題でもう一度たどる
  - ・別の（似た）問題で同じように解決してみる
  - ・自分で問題を作成してみる
  - ・逆思考となるような問題を解決してみる

【練習1】1週間の読書冊数について調べた結果から、最頻値を求めましょう。

▶【練習2】1週間の読書冊数について調べた結果、下の表のようになりました。

4	5	6	6	■	7	7	8	9	10
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

最頻値が6であるとき、■に当てはまる値を求めましょう。  
また、この時の中央値、平均値をそれぞれ求めましょう。

※ 単なる適用する問題【練習1】だけでなく、逆思考となるような問題【練習2】を解決することを通して、知識・技能を確実に身に付けましょう。

**Point 2** 「何を説明するのか」「どのように説明するのか」を明確にした上で説明する指導を行いましょう。

数学の説明には、事柄や事実の説明\*、方法の説明\*\*、判断の理由の説明\*\*\*があります。

- \* 事柄や事実の説明…予想した事柄を数学的な表現を用いて説明する  
「～（前提あるいは根拠となる事実）～は、…（結論）…である。」
- \*\* 方法の説明…問題解決の方法を数学的な表現を用いて説明する。  
「～（用いるもの）～を用いて、…（用い方）…である。」
- \*\*\* 判断の理由の説明…事柄が成り立つ理由を説明する。  
「～（根拠）～であるから、…（説明すべき事柄）…である。」

⑥(3) \*事柄や事実の説明  
【問題の概要】 正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、○に入れた整数の和と□に入る整数の和について予想できることを説明する。  
【解答】「□に入る整数の和は、○に入れた整数の和の3倍になる。」

⑧(2) \*\*方法の説明  
【問題の概要】 18Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合のストップの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する。  
【解答】「強」の場合の式と「弱」の場合の式について、それぞれの式にy=0を代入し、xの値の差を求める。」

⑦(2) \*\*\*判断の理由の説明  
【問題の概要】 車型ロボットについて「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、5つの箱ひげ図を比較して説明する。  
【解答】「速さが段から1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、箱ひげ図の位置が右側にずれていっているから、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある。」

各説明に含まれるべき内容を確認し、「何を説明するのか」「どのように説明するのか」を明確にして、数学的な表現を用いて説明する活動を位置付けましょう。

**Point 3** 説明を読んで評価・改善したり、新たな性質を見いだしたりする学習活動を充実しましょう。

不十分な説明に対して、根拠を明らかにした説明に書き直させる活動を基にして、説明に必要な条件を生徒たちに意識付けることが大切です。そのためにも、意図を明確にした教師の発問が大切です。

例「(a+b)、(b+c)、(c+a)は何を意味していますか。」  
「なぜ、2a+2b+2cを2(a+b+c)の形にしたのですか。」  
「結論を文章で書きましょう。」

与えられた問題を説明（証明）するだけでなく、説明（証明）した後、その説明（証明）を読み、問題を発展的に考える活動を取り入れていくことも大切です。

※今回の数学の調査問題では、正三角形から正四面体へと発展させています。

⑥(3)正四面体の各頂点に○を。各辺に□を書いた図において○に入れた整数の和と□に入る整数の和について予想できることを説明する問題

⑥(2) 正三角形の3つの頂点に○を、3つの辺に□を書いた、○には整数を1ずつ入れ、□にはその両端の○に入れた整数の和を入れます。このとき、「□に入る整数の和は、○に入れた整数の和の2倍になる」という予想が成り立つことを説明します。

$$\begin{aligned} &(a+b)+(b+c)+(c+a) \\ &=2a+2b+2c \\ &=2(a+b+c) \end{aligned}$$

○に入れた整数を a、b、c とすると、3つの□に入る整数は、a+b、b+c、c+a と表される。それらの和は、  
 $(a+b)+(b+c)+(c+a)$   
 $=2a+2b+2c$   
 $=2(a+b+c)$   
a+b+c は○に入れた整数の和だから、2(a+b+c)は○に入れた整数の和の2倍になる。  
したがって、□に入る整数の和は○に入れた整数の和の2倍である。

# 質問調査結果から見られる改善のポイント

## Point ①

「個別最適な学び」「主体的な学び」「対話的な学び」の視点から授業改善が進められています。しかし、児童生徒がそう感じている割合は教師より少ない実態があります。特に、「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」と感じている児童生徒の目線に立って、授業を振り返る必要があります。

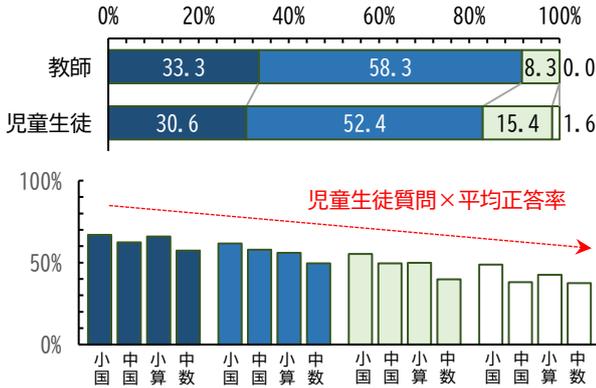
\*R6美濃加茂市学校教育の方針と重点『学ぶ喜び 学び合う楽しさ』の実感できる授業づくり①の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況

◆小学校/中学校 学校質問  
●小学校第6学年/中学校第3学年 児童生徒質問

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる  
■どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

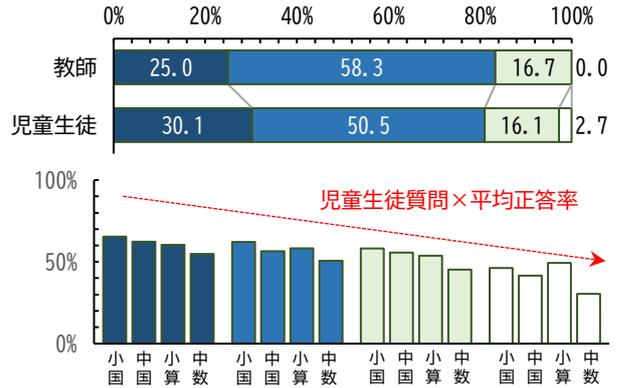
### ◆一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しているか

#### ●自分で学び方を考え工夫しているか



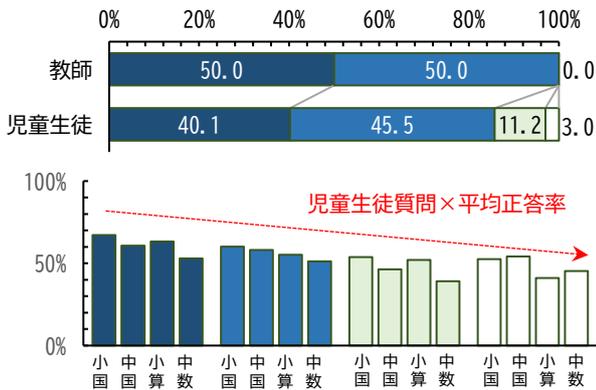
### ◆各教科等で身に付けたことを生かす機会を設けているか

#### ●授業で学んだことを、次の学習等に生かすことができているか



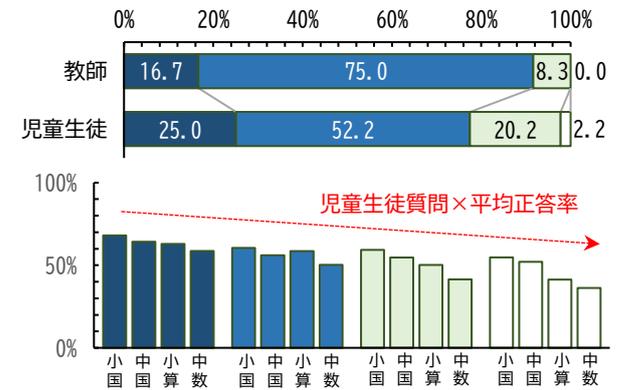
### ◆他者と話し合ったり、異なる視点から考えたりできるように学習課題や活動を工夫しているか

#### ●話し合う活動を通じ、考えを深めることができているか



### ◆課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなど学習活動を取り入れているか

#### ●自分の考えをまとめる活動を行っているか

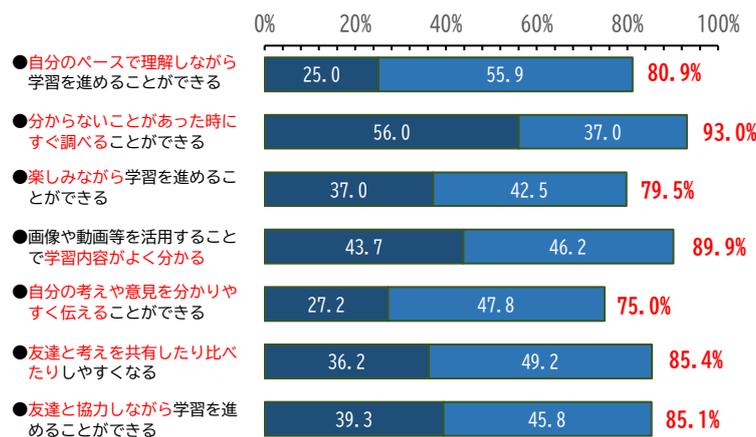


## Point ②

児童生徒は、学習場面におけるICT機器の活用に対して効力を感じている実態があります。美濃加茂市情報教育委員会での研修内容を、自校で幅広く共有し実践するなど、ICT機器をこれまでの授業実践と最適に組み合わせる活用を一層工夫する必要があります。

\*R6美濃加茂市学校教育の方針と重点『学ぶ喜び 学び合う楽しさ』の実感できる授業づくり①の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況

### 学習場面におけるICT機器の活用に対する児童生徒の意識



市情報教育委員会では、学習場面におけるICT活用について効果のある実践事例の蓄積を行っています。  
令和5年度は、eライブラリを活用した国語科の授業実践やSKYMENU等を活用した算数科の授業実践を提供していただきました。どんどん参考にしましょう。



#### 指導・援助・留意点

【研究内容①「導入の工夫」】  
【ICT活用】Prezi  
・児童が着目した2人をピックアップして比較し、AとCの速さを比べられないことから課題に必然性をもたせると共に、時間か道のりのどちらかをそろえれば比較できるという見通しをもつことができるようになる。

【ICT活用】eライブラリ  
・eライブラリの確認テスト「単位量あたりの大きさ」でつまずきが見られた児童を把握し、指導援助する。

【ICT活用】SKYMENU（個人追完）  
・SKYMENUの発表ノートに考えを記述する。班での追完では、タブレットの発表ノートを基に交流する。つまずきが見られる児童には、発表ノートのヒントページを示す。

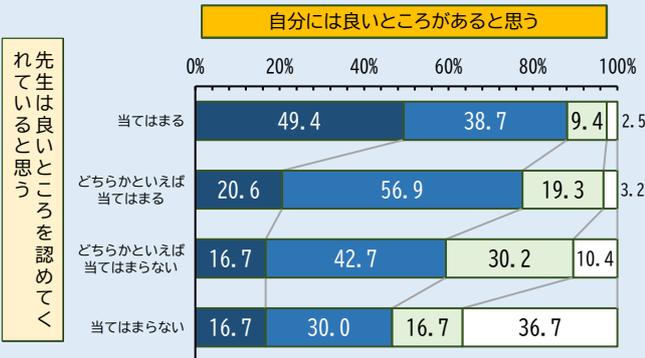
公開授業学習指導案から抜粋  
R6.1市情報教育委員会

Point ③

児童生徒の8割以上が「自分には良いところがあると思う(どちらかといえば思う)」と回答しています。「**自己有用感**」「**他者との協働**」「**挑戦心**」等と**自己肯定感**に関係があります。

\*R6美濃加茂市学校教育の方針と重点『自己有用感』の味わえる居場所づくりの趣旨を踏まえた教育活動の取組状況

自己有用感 × 自己肯定感



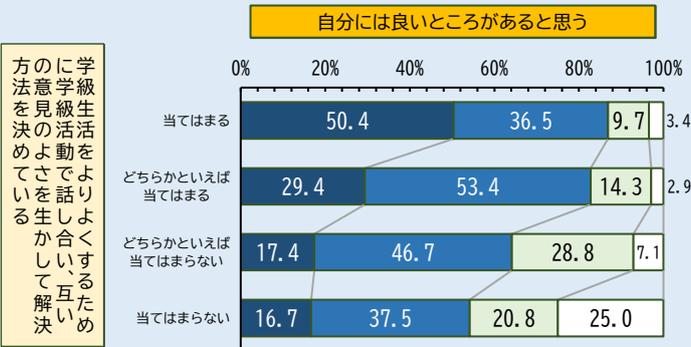
自己肯定感の向上につながる大切な働き掛け『よさ見つけ』では、例えば、「〇〇係として忘れずに仲間呼び掛けました」だけでなく、

- ◆「〇〇係として忘れずに仲間呼び掛けたことは、**仲間を心底大切にしようとするあなたの優しさです**」
- ◆「〇〇係として忘れずに仲間呼び掛けたことは、**責任感のある人間の証明です**」
- ◆「〇〇係として忘れずに仲間呼び掛けたことで、**地道に取り組む素晴らしさを仲間にも示しました**」
- ◆「〇〇係として忘れずに仲間呼び掛ける姿と**同じような姿を、他の場面でも見つけました**」

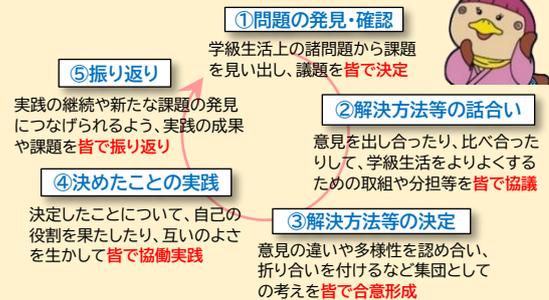
など、「事実」だけでなく、その事実の「価値」や「願い」を深掘りし、**自覚するまで伝え続けていく**ことが大切だね。



他者との協働 × 自己肯定感

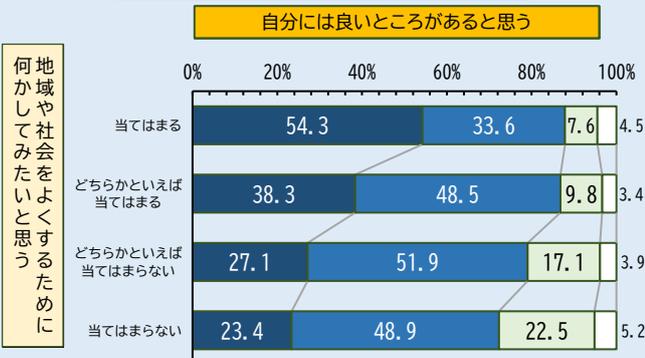


「学級生活づくりへの参画」の学習過程では、



“村度なし”“同調圧力なし”の学級風土が大切だね。

挑戦心 × 自己肯定感



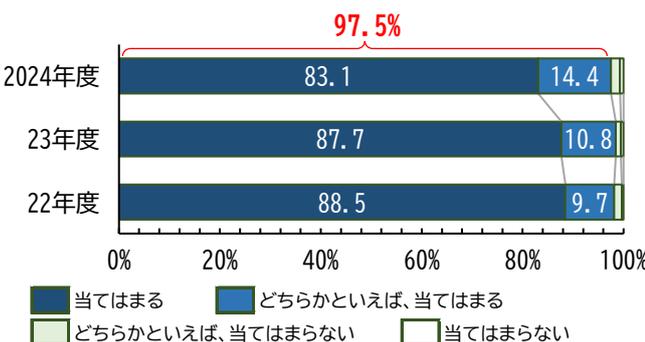
「コミュニティ・スクールだより」R5.12発行美濃加茂市教育委員会

令和4年度から、美濃加茂市の全小中学校はコミュニティ・スクールとして動き出しています。その仕組みを活用して、**子供たちが地域や社会で貢献できる場を創っていく**ことも大切だね。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

Point ④

児童生徒の9割以上が「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う(どちらかといえば思う)」と回答しています。「いじめはどんな理由があってもいけない」と**言い切れない児童生徒の想いに寄り添う**必要があります。 \*R6美濃加茂市学校教育の方針と重点『自己有用感』の味わえる居場所づくりの趣旨を踏まえた教育活動の取組状況



互いに広げよう「思いやりの心」

いじめによって、悲しんだり苦しんだりしている仲間はいませんか。「人として生きていく上で最も大切にすべきこと」それは、互いに思いやる気持ちです。誰もが気持ちよく通える学校にするために一人一人が「思いやりの心」を広げていきましょう。

- ▼ あいさつの輪を、地域に広げます。
- ▼ ネットルールを、定着させます。
- ▼ 環境を、美しく整えます。
- ▼ 仲間との絆を深めます。



R1.8.21採択 美濃加茂市あじさい小中学生サミット2019